



武蔵野市水環境連続講座「水の学校」とは

「水の学校」は、市民のみなさんといっしょに、水を知り、考える連続講座です。くらしの中の身近な水循環、下水道の役割や、水に親しみ水を楽しむ知恵、そして世界規模の水課題、地球規模の水循環まで、水を取りまくさまざまなテーマを取りあげ、楽しみながら考えを深め、行動へつなげます。2014年度からスタートし、5年目を迎えました。

連続講座レポート

第6回 最終講座 「水の学校」から始める武蔵野の未来の水 修了式

12月8日（土）、第6回講座では、今年の講座を振り返るとともに、これから何ができるかを話し合いました。その後行われた修了式では、松上市長から受講生1人1人に激励の言葉と共に修了証が手渡されました。

水環境の変化を知り、備える

今回の講座では、環境部長から温暖化による水環境の変化についてお話ししました。2050年には温暖化の影響でゲリラ豪雨が激甚化し、超大型台風が襲来、こまめな消灯などの省エネでは温暖化を防ぎきることができず、技術革新が必要だというシミュレーションがあります。2020年秋には市の環境啓発施設であるエコプラザ（仮称）が開設される予定です。水の学校を受講した皆さんが、水を起点として環境全般へ行動の輪を広げていただければと思います。

また、橋本先生からは、この1年、国内では地震による断水、海外では氷河の融解や河川の水質汚染など、水の使用に困難が多かったお話がありました。私たちは普段の暮らしでどのように水を備えれば良いのでしょうか。

【クイズ1】防災用に水を備蓄する時、1日1人あたりどのくらいの水が必要？

【答え】13ℓ。（飲み水3ℓ、生活用水10ℓ。）飲み水は普段2リットルですが、被災時は乾燥したビスケットを口にすることが多く、普段より飲む水が多くなります。

【クイズ2】水の備蓄でポリタンクに水道水を入れる時にやるべきなのは？

【答え】汲み置いた日をメモしておく。3日までならそのまま飲めます。その後は茶碗を洗う水などに使って、また新しく汲み置きましょう。他の選択肢「勢いよく水を入れる」「一度沸騰させる」はやってはいけません！塩素が飛ばないように、空気なるべく入らないよう、水道の蛇口から直接、なるべくゆっくり入れて静かに蓋をすることが大事です。

「水について伝える」を企画しよう

受講生の皆さんがやってみたいこと、深めたいこと、伝えたいことをグループごとに紙芝居形式で発表していただきました。

- 災害時の飲み水の確保、飲めるか見分けて処理する方法をイベントで知ってもらいたい。
- 上下水道のPR。ペットボトルに施設案内を載せたり、見学ツアーを行いたい。
- 水の大切さと暮らしの中での望ましい水の使い方を学べるボードゲームを作りたい。
- 湧き水（名水）の飲み比べ・水源草刈りツアーをしたり、水関連マップ作成をしたい。
- 仙川で豪雨時の雨水を利用し、水に親しみふれあえる浅瀬の水辺を作りたい。
- 合流改善のしくみと市民による雨水の貯留や浸透の大切さを口コミで広報したい。

水の学校の5年間を振り返って

水の学校は2014年に開校してからこれまでの5年間、毎年、連続講座を行ってきました。今回、1年目に受講し、サポーターとして活動しているお二人に、5年間を振り返っていただきました。



水の学校サポーター 内田さん

水の学校は2014年を始めとして当年で5期を満了しました。

水の学校は、市民といっしょに、水を知り、考える、単年度単位で終了する連続講座です。くらしの中の身近な水環境、上下水道の役割や、水に親しみ水を楽しむ知恵、そして世界規模の水の課題、地球規模の水循環まで、水を取りまく様々なテーマを取り上げ、楽しみながら考えを深め、行動をしてきました。

この5年を振り返ってみると、ニュースレターvol. 1～30で成果を理解することが出来ます。（武蔵野市ホームページで閲覧可）しかし30個のレポートは終了ではありません。次世代の市民の皆さんに継承・発展させていただきたいのです。地球上のすべての「いきもの」にとって必要な水、空気、土壌など神羅万象の物質・物性は人知を超える創造のたまものであり、未来永劫に渡って自然法則と合理的な関係を維持していかなければなりません。とくに「水」は直接的、即時的にその課題を常に突き付けてきます。

水の学校で培った精神や知見を未来につなぎ、誇れる水環境都市武蔵野市の更なる発展を期したいと思います。



水の学校サポーター 幸田さん

長いようで短かった5年間ですが、毎年職員さんも変われば受講生も変わり、内容も変わるので、いろんな施設に連れて行っていただいたり、いろんな専門家の方からお話を聞けたり、受講生の意見を聞くことができました。（見学するルートや自分がいた位置、グループによって聞けなかったこともたくさん!）普段見られないこと、気づかなかったことを見ること・気づくことができた5年間でした。

